

# 備える 3.11から

## 第174回 特別編 311メディアネット



「むすび塾」共催各社の所在地

東日本大震災の教訓から「いのちと地域を守る」をテーマに、地方紙などが連携した企画「311メディアネット」。「備える」では、特別編として各地の防災活動を取り上げており、今回は東京新聞（中日新聞東京本社）、京都新聞、宮崎日日新聞の報告を紹介する。

### 「命を守る」各地の取り組み

311メディアネット 河北新報社（山口市）が展開する防災の巡回ワークショップ「むすび塾」を共催した全国の地方紙、放送局（地図参照）が参加するネットワーク。「共催のつながりを生かし、連携して防災機運を盛り上げよう」と各社が記事を持ち寄り、東日本大震災発生日前後に共通タイトルの特集や連載、番組を組む。ことが3回目。

## 特技生かして復旧加速

### 東京新聞

「同じような災害がまた訪ねた住宅で雨漏りによるカビ被害を目にした。除去作業も追加して喜ばれたが、「被災者のニーズが届いていない」を痛感している。ボランティアもいたのに、どこかかきも覚えな

昨年九月七千葉県に上陸した台風15号により二千棟以上が損壊するなど、深刻な被害があった同県南房総市で、屋根のフルシート張り（特化）活動するボランティアグループ「四番隊」。リーダーで会長の伊藤純さん（右）と、同県袖ヶ浦市には、う巻る。

二月下旬、シート張りです十数人で四番隊を結成し



台風15号で被災した屋根のフルシート張り作業に当たる伊藤純さん（右から二回目）と、四番隊のメンバー（千葉県袖ヶ浦市）

メモ 台風15号は昨年9月9日に千葉県に上陸。千葉市で最大瞬間風速57.5m/sの観測史上最高値を更新した。同県内では、屋根が飛ばすなど7万棟以上が被害を受けた。最大64万戸が停電し、ほぼ復旧するまでに2週間以上要した。翌10日には台風19号や豪雨被害も重なった。

#### ■記者の視点

千葉県南部を訪れると、屋根が水色のフルシートで覆われた住宅が今でも目立つ。現場では工事業者の順番待ちで屋根の本格修理のめどが立っていないケースも多いと知った。復旧復興のスタート台にも上がっていない人がいることを忘れてはいけない。

（東京新聞・中谷秀樹）

「備える」は毎月第一月曜日に掲載予定。次回は五月四日です。

## 中日サバイバルキャンプ運営 ボランティアサポーター 「指導役」大学・高校生募集

地域防災を支援する避難生活体験プログラム「備える！中日サバイバルキャンプ」（中日新聞社主催）が10月31日、11月1日の1泊2日で、愛知県豊

川市防災センターなどを会場に開かれる。このキャンプの企画・運営を手伝うボランティアサポーターを募集している。

キャンプは、小中学生と保護者を対象に災害時に役立つ知恵や技術を身に付けてもらう。夜は段ボールでつくるシェルターの中で寝る。

ボランティアサポーターの対象は愛知県内の大学生・高校生。5月から毎月1回程度、名古屋市の中日新聞社で

開かれるワークショップに参加し、防災の知識を身に付けた上で、スタッフとして運営に加わる。すべてのワークショップに参加する必要はなく、途中の回からの参加も可能。会場までの交通費は支給される。

「備える！中日サバイバルキャンプ」のホームページから申し込む。問い合わせは中日新聞社社会事業部＝電052(221)0955（平日午前10時～午後6時）＝へ。